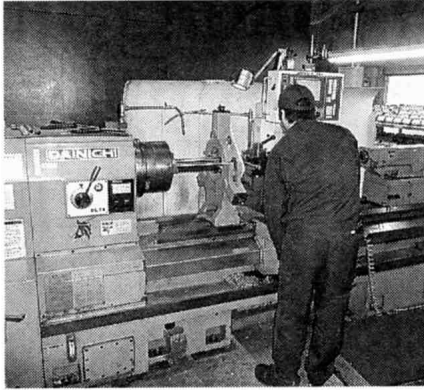


東京チタニウム

生産能力3割増強

チタン製品 海外市場拡大見込む

チタン材販売などを手掛ける東京チタニウム(さいたま市、小沢日出行社長)は7月をメドに、チタン加工部品の生産能力を約3割増強する。チタンは軽くて強度があり耐食性に優れるため、化学プラントや半導体製造装置、船舶などの部品や医療製品などに幅広く使われる。海外向けを中心に市場拡大が見込めるため、生産体制を整えて需要を取りこむ。



第1工場にはチタン材を切削加工する数値制御旋盤を2台、追加導入する(さいたま市)

5000万円投じ新装置

チタン材をのこぎり刃で切断する機械2台を第2工場(同)に導入。切断した材料をボルトやノズルなどの部品に切削加工する数値制御(NC)旋盤2台を第1工場(同)に導入する。

設備投資額は約5000万円。チタン製品の加工能力は3割程度増えるという。化学プラントで使う、薬品が通る配管のノズルの受注の見通し

が立ったため、能力を増強する。設備増強で納期の短縮を進める。

同社はチタンの板や棒などの素材の販売と、チタンを使った加工品、製品を手掛けている。配管部品や海底探査機用の耐熱容器、ピンセットや人工骨など向けに供給している。

東京チタニウムの2010年8月期の売上高は前期比7%増の7億7600万円。08年秋のリーマン・ショックによる国内市場の低迷で、売上高はピークの06年8月期から半減。生産体制の強化と、医療や海洋分野などの市場開拓により、15年

8月期をメドに売上高14億円を目指す。

チタンは薬品や海水などに触れても劣化しにく

いのが特徴で、熱にも強い。このため中東などで、化学プラントや海水淡水化プラントの配管など向

けに需要が高まっているという。航空機エンジン部品などとしても市場拡大が見込まれる。